

令和 6 年度「議会報告と町民との意見交換会」 (議会フォーラム) 総括 (案)

- 1 日 時 令和 7 年 2 月 15 日 (土) 13 時 30 分～16 時 20 分 (集合/12 時)
- 2 会 場 めむろ駅前プラザ (2 階セミナーホール/2 つに区分し使用する)
※「議会報告会」及び「基調講演」の会場と「町民との意見交換会」の会場区分
- 3 構 成
 - (1) 議会報告会 (35 分) (13:30-14:05)
 - ・総務経済常任委員会 (5 分)
 - ・厚生文教常任委員会 (5 分)
 - ・新嵐山スカイパーク経営改革調査特別委員会 (20 分)
 - (2) 基調講演 (60 分) (14:05-15:05)
 - (3) 町民との意見交換会 (60 分) (15:15-16:15)
- 4 議会報告会
 - (1) 総務経済常任委員会 (5 分)
 - ・政策課題 「芽室町まちなか再生ビジョン」の検証並びにあり方について
 - ・報告者 正村紀美子総務経済常任委員長
 - (2) 厚生文教常任委員会 (5 分)
 - ・政策課題 誰一人取り残さない防災体制の構築について
 - ・報告者 中村和宏厚生文教常任委員長
 - (3) 新嵐山スカイパーク経営改革調査特別委員会 (20 分)
 - ・調査事項 新嵐山スカイパークの運営等に係る調査研究報告について
 - ・報告者 鈴木健充新嵐山スカイパーク経営改革調査特別委員長
- 5 基調講演
 - (1) 講 師 山崎 幹根氏 (北海道公共政策大学院長)
 - (2) 趣 旨

年々、町内会等の自治活動への住民意識が低下する中、今後に向けて目指すべきコミュニティを考える機会とする。講演は前後半で視点を区分し、前半は参加者全員に対するメッセージとして「全国・全道のコミュニティの実態紹介+主たる課題の抽出+課題解決の対策・方策」とし、後半は議会議員を対象にしたメッ

セージとして「議会・議員への影響+議会・議員が担う役割」とし、質疑を含めて全体で60分の講演（構成）とする。

(3) テーマ 「人と人がつながる新たなまちづくりを考えよう」

(4) 基調講演の趣旨（前半）

- ・芽室町における町内会（地区別）以外の「分野別コミュニティ」の存在の共通認識を図る（町内会機能のみへのコミュニティ意識を緩和させる）。
- ・芽室町ならではの「コミュニティ機能（町民活動支援センター・総合計画審議会等）」を確認し共通認識を図る（既存の町独自のコミュニティ機能への気付きを促す）
- ・町内会を縦軸とするのなら、他の機能や役割を横軸と捉えて、線と線が交わり、面となってまちのコミュニティを形成していることを確認し共通認識を図る。（新たなしくみを構築することと同様に、既存のしくみの充実・活用のヒントを示唆する）
- ・道内の事例として、東神楽町（公民館単位の自治機能の構築）の取組などを紹介する。

(5) 基調講演の趣旨（後半）

- ・地方（町村）議会が「コミュニティのあり方」を考える意図や必要性は何か？が後半の主たる視点であることを問題提起する。
- ・一般論として、「コミュニティのあり方」を考える際に、行政が担う役割と議会が担う役割とは何か？違いは何か？の共通認識を図る。
- ・芽室町議会は、コミュニティの重要な機能である「町内会」について、これまで、その意義や機能をどう捉えてきたのか？今後に向けてはどう捉えようとしているのか？広聴（意見聴取）の対象としてなのか？「なり手」の発掘としてなのか？等々を問題提起する（必要に応じて出席議員からコメントを求めることも要検討）。
- ・そもそも地方（町村）議会に課せられている責務と役割は何か？少子高齢化の進展に伴い、今後、地方議会に期待される責務と役割は何か？芽室町議会が個性と独自性を発揮することは必要か？等々を問題提起する。
- ・芽室町の行政経営及び芽室町議会との包括連携協定事業に長年関わっている立場として、講師に一定の総括をしていただく。

6 町民との意見交換会

- ※ 出席者をあらかじめ集約し、グループ構成を確定。
- ※ 7グループ編成／1グループ：6～8名（議員2名+参加者4～6名）
- ※ SOUNDCARD（7セット保有）を活用した意見交換会を実施。
- ※ 山崎先生にはオブザーバーとして最後に講評をいただいた。

- (1) コーディネーター：渡辺洋一郎議員（議会運営委員長）
- (2) グループファシリテーター：芽室町議会議員（7人）
- (3) テーマ：「人と人がつながるまちづくり」
- (4) 趣旨
 - ・意見交換（ワークショップ）の趣旨は、町内会（行政区・農事組合等）以外（地区別）の活動として、町内に存在する「コミュニティ機能（分野別）」を抽出し、それぞれの機能と役割を確認するほか、今後に向けた展望や期待感を出し合う。
 - ・意見交換（ワークショップ）は一定の結論を絞り込むのではなく、「コミュニティ」の定義を俯瞰して捉え、既存のそれぞれの「コミュニティ」の役割を重なり合わせて、今後のまちづくりを進める発想と共に、必要に応じてまちにふさわしい新たな「しくみ」の構築を考えるきっかけとする。

7 参集範囲＜目標人員：50名（議員除く）／グループ構成：6～7名＞

- ※ 各区分ごとに担当議員を割り振り、事前に直接依頼
- ※ 十勝管内町村議会議員に対し参加案内をする（議会報告会・基調講演のみであったが、意見交換会の参加人数が少ないことから意見交換会にも参加可として参加者へ連絡し確認した）。

- (1) 町民
- (2) 市街地町内会連合会役員（市街地町内会長）
- (3) どんぐり会
- (4) めむろみなくる商店会
- (5) 白樺学園高等学校・芽室高校
- (6) 議会改革諮問会議委員
- (7) 議会モニター
- (8) 町内各種団体（農協青年部・女性部、商工会青年部・女性部等）
- (9) 町民活動支援センター
- (10) 町職員
- (11) 十勝管内町村議会議員（事務局経由で情報発信）

8 役割分担＜(2)～(6)は各常任委員会から半数ずつ選考／別途詳細整理＞

- (1) 司会進行（1名）～渡辺議会運営委員長
- (2) 会場レイアウト作成・当日会場運営指示・誘導（設営・撤去）（4名）
 - ◎木村、堀切、早苗、常通
- (3) 受付・資料配布（2名） 小笠原、西尾
- (4) 会場内案内・音響操作・座席追加等（2名） 菊地、伊藤
- (5) 記録（写真・報告書）（2名） 橋本、立川

(6) ファシリテーター・記録（7名）

A：堀切／中村、B：西尾／立川、C：伊藤／木村、橋本

D：小笠原／鈴木、E：菊地／中田、F：早苗／正村、G：常通

9 開催までの動き（広報・参加案内等）

(1) ～1月28日（火曜）開催周知（議会 HP・SNS）

関係機関案内開始＜参加者報告期限：2月3日（月）＞

(2) 2月1日（土）新聞ちらし折込（勝毎・道新）

（参加申込期限：2月6日（木））

(3) 2月7日（金）参加者確定（グループワーク構成決定）

10 特記事項

(1) 講師旅程 2月15日（土）・日帰り行程（JRは講師自身が手配）

・往路：札幌発7時58分（とちち1号）→芽室着10時33分

・復路：芽室発19時32分（とちち10号）→札幌着22時15分

(2) 会食対応

・昼食：事務局

・夕食（飲食店）：議長、議運委員（7）、事務局（1）

(3) 当日の服装はノーネクタイ可。

(4) 資料はあらかじめテーブルに配布。

(5) 資料は、次第、両常任委員会進捗工程表、新嵐山スカイパーク経営改革調査特別委員会中間報告書を紙に印刷して配布した。

(6) 意見交換会については当初6グループの設定であったが、当日参加希望者が増加し、7グループに増やして実施した。

11 事業総括（事業手法、内容、成果、今後の方向性等）

(1) 事業手法

令和6年9月頃より、開催に向けてテーマ設定、講師、内容等を全議員で情報を適宜共有しながら取り進めてきており、準備期間、進め方としては適切だったと考える。

(2) 内容

・3部構成により、メリハリある構成になったと考える。

・議会報告会においては、現在議会が取組む政策課題について、総務経済常任委員会、厚生文教常任委員会、新嵐山スカイパーク経営改革調査特別委員会から取組み状況について報告したが、参加者アンケートからも概ね好評であったことが伺える。時間的制約によって予定時間を若干超過したが、資料を投影して説明した

ことによって参加者の理解増進につながったと考える。報告にあたっては、あらかじめ委員会の中で協議しておく必要がある。基調講演については、事前に講師との細かな打ち合わせを行っており、テーマについて、参加者の理解が深まり地域コミュニティについて考える動機づけにつながったものとする。

- ・意見交換会については、初めてSoundカードを使用した町民との意見交換をグループごとに行ったが、参加者からは非常に好評をいただいたことから、テーマ設定、進め方、内容について概ね適切だったと考える。

(3) 成果

町内会等の自治活動への住民意識が低下する中、目指すべきコミュニティを考える機会となり、今後議会においても、所管する委員会において調査・研究するきっかけとなった。

(4) 今後の方向性

今年度の議会フォーラムについては、テーマ設定、内容等、概ね参加者からも評価いただけたと考える。次年度に向けては、町民にわかりやすい議会報告のさらなる工夫、意見交換会のテーマ設定等、創意工夫を行い、議会活動の情報公開、住民参加を進めていく。

2月15日開催議会フォーラムSOUNDカード™を用いた意見交換会記録

アジェンダ「人と人がつながるまちづくり」

SUTATUS 現状認識の共有

A グループ

- ・今回の大雪で人々が励まし合う様子などにつながりを実感
- ・集団のために頑張るのではなく自分の内面から考えてみる
- ・地域コミュニティの限界がきている。まずはやれることから始まる
- ・大雪の時、危機感と町内会の大切さを実感した。災害時果たして自分一人で大丈夫か？
隣の人とのコミュニケーションとお陰様の気持ちが大切。

B グループ

- ・今日のようにいろんな場に参加して人と繋がれることが楽しい
- ・大雪で困っていた時町内会長が重機で助けてくれたことにグッときた
- ・コロナのせいで社会状況が悪化している。選挙のやり方も変わったが同様のことが地域にも起きている
- ・今日の講演を聞いて活動支援センター、町内会、町、議会が繋がることが今こそチャンス！と感じた
- ・映画の上映会振り返りで若い世代からは次のステップへのアイデアがたくさん出ていたが、シニア層からはやり遂げた感のみでそこに世代のギャップ、寄り添えていない感じがした

C グループ

- ・今日は様々な人と会することができ、知り合うことができた。新しい発想に触れ世界が広がった。こういう機会は若い頃に体験したかったが、これからは有休を活用し社会活動にも取り組みたい。楽しみだ。
- ・批判は本人に直接することで誤解を防げる
- ・芽室の町内会加入率低下の状況は全同ワースト 4 位。役員の大半を男性が占める状況から女性参画の割合を増やせば改善されると思う
- ・思いやりを大切にしたい。老人クラブでは女性の退会が顕著。町内会では班長が当たりそうになると辞める事例がある
- ・池田町は人口減少や町財政の厳しい状況。町内会に関わる人も減少しているが隣近所の付き合いは大切なのでこれからも町内会を通したつながりを守りたい。

D グループ

- ・発達障害のある子どもが将来に渡り地域で安心して働き、暮らしていけるかが気がかり
- ・町内会の加入率、自治会の機能性、加入しなくても困らない。当然加入するものから現状は価値観が変化している（行動規範）

- ・運動ができない、パーソナルジム、食生活の変化、体の代謝上手く巡っていない、5キロ歩く、
- ・不登校があった。自分の居場所づくり。好きな場所、いきたくなる場所。自治会、情報提供するが来ない。若者と地域が混じり合える
- ・自治会の運営が一部の人に偏っている任期が長い、いつも同じ話ばかり。

E グループ

- ・いろいろな人と出会い違い世代の人と共感できたことにグッときた
- ・関わりがないと悪化しているように思えるが、互いに話し合うことで世代間の考えを共有できる。しかしその場が作るできないのが悪化の要因
- ・地域と密接になりたい。加入率50%~60%。未加入の人と話すきっかけがない
- ・役場職員の加入は強制できないが助け合いはできるのか？災害時には出勤しなくてはならないが、一地域住民としては両側面で心配
- ・防災は地域の人と同じ考えでなければ助け合えない
- ・未加入世帯への広報誌の配布など、自治体からの依頼業務が負担

F グループ

- ・「若者の参加が足りない」というがそもそも若者がいない
- ・かつては葬儀やソフトボール大会ができていたが、多様性の今の時代に町内会に何を求めるのか？50%加入率の町内会組織はもはや機能不全ではないか
- ・神社そのものは否定しないが、嫌だと思っている人に強要する必要はない。そのことを議論できていない現状がある。
- ・物事を変えることを恐れない。町内会はゼロベースで考え、これからのコミュニティをつくるべき。

G グループ

- ・自分で解決しないことに対しセミナー受講などで広く声を聴けたことにグッときた
- ・行動規範が邪魔をしていることが多い。一人で悩みを抱え込まない（効果的な行動規範）
- ・SNSを効果的に使いたい世代間ギャップがあり難しさを感じる（発言のリスク）
- ・匿名じゃないと発言しない傾向が町内にあるため意見交換がスムーズにいかず対応に苦慮している。
- ・前任者が複数の仕事を請負すぎると次期に繋がらない。町内会に縛られずにつながる事が大事（もやもや）

OUTCOME ビジョンの策定

A グループ

- ・無理なく楽しいコミュニティと家族以外にも想いを馳せられるコミュニティ
ex) ゴミ問題→もしかしたら高齢世帯？多忙なひとり親世帯？
- ・人口減少の中地域の役割が多くなるが自分には何が出来るかを考える

- ・一言スピーチ、新しい発想のもと町内活動に取り組むことには危険性もある。質感の重要性
- ・他者の痛みに寄り添えること。自分ができることは他にも共有する。適所適任。
- ・町内会ではちょうど良い距離感を作る。思いやりを持つ。
- ・アンケートはある種の暴力、それが正しいとは思わない。

B グループ

- ・駅前人が集えるような小さな公園、スペースを作りたい（未来への貢献）
- ・生まれ育った芽室町が大好きな思い、子どもの頃に関わってくれた人たちのこと、楽しかった思い出を大切に、取り組みを継続したい（忘れずにいたい思いと願い）
- ・年齢に負けず新しい学びに取り組みたい
- ・寂しさや孤独を解消できる地域を作りたい。コロナで変わってしまった社会を変えたい

C グループ

- ・苦楽を共にするチームを作りたい
- ・団塊の世代。2047年に100歳になるまで健康で頑張りたい
- ・町内会では高齢者の見守りを進めている。みんなで近所を見守る町内会を作りたい。
- ・農業をしているので自給率を向上したい
- ・町内会役員は全て一年交代とするなど、現在役員をしているうちに何かを変えたい

D グループ

- ・街角にあるが一軒のみ。若い世代が多いので順番で意見したり、町内加入が増えたら夢が広がる。地域に関わっていききたい。呼びかけも大事。多くの人と関わりたい。
- ・自分本位の思い、町の考えの世代交代、関わりが面倒。
- ・未来予想図描く、少子化対策、回復できない
- ・地域に留まること、住んでいる人、インフラ維持大変、町が目指すものは何か？30年後はどうなっているか、我々が残すものは何か（未来への貢献）
- ・書店経営しているが、決まったものしか売れない。本通りは土日人が少ない。みんなが歩いて回れる楽しいまちづくり。ゴミステーション、町内会は関係ない。同じ地域で楽しく助け合ったりオープンに話せる環境
- ・遠い親戚近くの他人、触れ合い、心の痛みが癒やされる地域。

E グループ

- ・大雪の時に人と人のつながりが大事と感じた
- ・手助けできる社会当たり前になっていたら良い
- ・新しいこと、チャレンジしたいことへの応援、ポジティブにみんなでまちづくりに関わりたい
- ・まちづくりを通じていろんなひととき関わる。参加することで世代に違いや違う考え方に触れることができる、そんな地域であれば良い
- ・自分本位の人とどう関係を築けるかが課題（町の発信を受けていない人）

- ・マンションに越しても隣近所への挨拶が難しい。女性の一人暮らしが知られること不安。
- ・多忙な人への町内会加入強要はできない
- ・町内会加入にメリットはない
- ・人のつながりを考えることが必要
- ・話し合わなければ相互理解ができない。その機会作りが必要
- ・感謝と笑顔で人が繋がる

F グループ

- ・町内会が面白い場であれば若い人は参加してくれる
- ・若い人の発想でやりたいと思うことをやってみればよい。
- ・(若者の声として) 町内会に加入してよい経験ができた。とても良かった。
- ・中立性、公平性が確保される環境をつくる。伝統、格式は大事だが個人の思想や宗教を尊重する議論を行う。その際には「今までの文化や風習」を盾にしない。
- ・妥協や妥結を安易に選ばない。人と意見をぶつけ合うのは徹底的にする、*アウフヘーベン(あるものを、そのものとしては否定しながら、更に高い段階で生かすこと。矛盾するものを更に高い段階で統一し解決すること。止揚。揚棄。)する民主的なコミュニティを新たにつくる

G グループ

- ・平和な状況と参加率は反比例するかもしれないが、参加率100%を目指したい
- ・住民参加で施策を考える場で最終的には町のため、みんなのためという考えにまとまりよかった
- ・「共に生きること」がどんなに素晴らしいかを話し合う。このビジョンをピックアップしていきたい
- ・加入率は低いが、入っていてよかったと思える町内会にしたい。加入の有無に関わらず、いい近所付き合いは必要。有事には助け合える関係性が必要だが今はない
- ・人と人をつなぐために今後もいろんな活動をしていく

あなたが考える「人と人がつながるまちづくり」(A4用紙に記入)

- ・自分ごととして考え行動する
- ・人と人がつながるまちづくりを実現したい、近づきたいと思う仲間が沢山さんいることを再認識した
- ・参加の機会をつくる、出会いも大事でそれが地域コミュニティにつながり人がつながるチャンスになる。挨拶からまちづくりは始まる
- ・今日のような場に参加しない人が一人でも多く足を運ぶようになる魅力的な場を沢山つくる

- ・ 個々人が当事者意識を持ち自分ごととして考えるのが理想。発言するリスクを乗り越えてほしい。
- ・ 他人事ではなく自分ごととして考えられる気持ち
- ・ 楽しい活動
- ・ 町内会版活動の活性化、年4回の懇親会
- ・ 人間関係構築、共生尊重、公的・社会的支援
- ・ 向こう三軒両隣、独居世帯への声掛け、気軽に声かけできる関係構築
- ・ 議会フォーラムに参加する方々はある意味「おもしろい」人がほとんど。きてよかった
- ・ 「前提」の認識を合わせる（しつこいほど繰り返す）。一旦意見や思いを全部出す機会をつくる時代は変わっているという前提を認識する
- ・ （議会フォーラムという場を重視するなら）「議論」と「対話と妥協（アウフヘーベン）による課題解消」の大切さを議会がしっかり町民や地域社会に示し、体現してほしい
- ・ 「伝統の革新」強要禁止、思いやりを持って協議する。そうすれば必ず道は開ける
- ・ 人と人のつながり方が、町内会以外の方法があることに気付いた
- ・ 世代を超えたつながりの機会として今日のようなWSが設けられるのがよかった。話してみても楽しい、おもしろいを感じるきっかけになった
- ・ 笑顔と感謝
- ・ 押し付け合わず状況や背景を想像する余裕が必要
- ・ 仲間づくり
- ・ ただ町で暮らすだけではなく、同じ町で暮らす仲間と一緒に楽しむ、助け合う、手を取り合える関係性を築いていける、共に暮らすができるまちづくりを考え行動したい
- ・ コミュニケーション力の向上
- ・ 子ども、お年寄り、障がい者など支援が必要な人たちも活動しやすい場所を地域につくりお互いに助け合いができるようになればよい
- ・ 楽しいと思える地域活動ができるように意識したい
- ・ 人を知る、軽くつながる、思いを共有することから始める
- ・ すれ違って目線の合うまち（お互いに、同じもの）
- ・ こんにちは～、お元気ですか？の声掛けが私にできること
- ・ Respect Others（他者への尊敬, 尊重）
- ・ 人と人とが楽しく暮らせるまちづくり、みんなで助け合う
- ・ 思いやりの心（一人一人を大切に）
- ・ 多くの会話、言いたいことを言える社会
- ・ 町民が集まって色々話し合える場、機会をたくさんつくってほしい
- ・ つながりを「仕組む人、組織」が必要
- ・ フォーラム参加を通じて、町の中の各組織、グループ（活動支援センター、老人会、連合会、町内会、議会など）を大いに活用しグループが人のつながりに導かれるような活

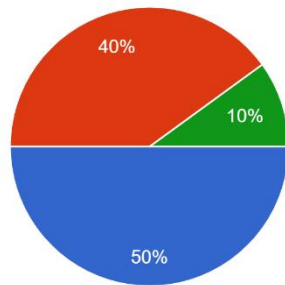
動ができればよい。議員は町との架け橋役を担ってほしい

- 100年後の自分も家族のいない世界に何を伝えて残せるか考えていきたい

令和6年度 議会フォーラム アンケート結果
(回答10名)

令和7年3月1日集計

質問1-1 議会報告はいかがでしたか
10件の回答



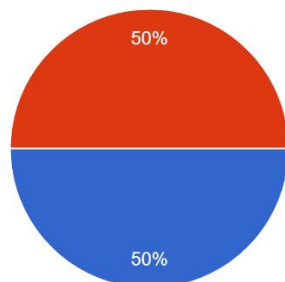
● ①大変よかった
● ②よかった
● ③ふつう
● ④あまりよくなかった

①大変よかった 5
②よかった 4
③あまりよくなかった 1

質問1-2 ④と回答の方は、具体的に改善点などありましたらお願いします

・講師の講演開始時刻にまで食い込んで議会報告を続けたのは、大変大きな失態だと思います。議会報告プログラム全体の構成準備不足、予行演習不足、タイムキーパー役割不徹底が原因だと思いますので、各発表者（各委員長）に責任を負わせるのではなく、議会全体で反省すべきかと思います。また、講演開始時刻が遅れたことについて、その場で直ちに、講師と聴衆の双方に対して、議会側のしかるべき人物がしっかりと謝罪の言葉を伝えるべきと感じました。親しき中にも礼儀あり、です。

質問2-1 基調講演はいかがでしたか
10件の回答

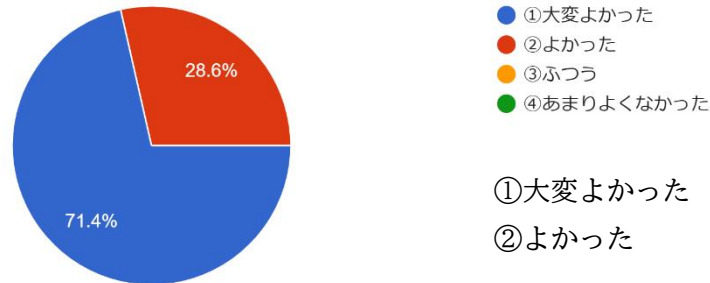


● ①大変よかった
● ②よかった
● ③ふつう
● ④あまりよくなかった

①大変よかった 5
②よかった 5

質問3-1 意見交換会（グループワーク）はいかがでしたか

7件の回答



質問4 全体をとおしてご意見・ご要望などありましたらお願いします（9件の回答）

- ・ 報告会など常にオープンに幅広く参加者を募り、多様な意見を聞かれる姿勢は本当にすばらしく、町外の我々にとっても学び大きい時間を享受して頂き本当にありがとうございました。
- ・ はじめて参加し、第三部の意見交換は大変に面白かったです。議員の方々の大変さを見、真摯な姿に感心しました。
- ・ 委員会報告は大変参考になった。町民へのフィードバックを常に考えており、感心する。
- ・ とても充実した構成、内容、テーマでした。おつかれさまでした。現在の議会活動のことも理解できましたし、山崎先生の話題提供も新しい観点があり、後半の話し合いにつながりました。サウンドカードは、初めて会う方ともテーマについてじっくり考えを交換できる、よい方法だと思います。議会活動の説明ですが、議会としての課題意識の明示と、現地調査前後の仮説（何かを確認するために調査したと思うので）と振り返りを語っていただくと、よりわかりやすく、まちの課題への関心も持てると思えました。議会へは今後も、まちの課題について旗を立てて「このことについて話しましょう！」と喚起していただくことも期待しています。このような機会を作り続けてくれる芽室町議会に感謝です。
- ・ いい一日を過ごさせていただきました。十勝管内の南十勝ではない町村の取組に参加することができ参考になりました。小池さん平岡さん白金さんや堀切議員に中村議員とのグループワークもよかったです。こういう取組ができるのが二元代表制の一翼を担う議会の醍醐味だと実感しました。最後に芽室町議会の皆様や講師の山崎様などお疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・ 新嵐山スカイパークの報告について、調査の経過についてはよく分かりました。現在の状況と問題や課題をどうするか、議会としての考えについてもう少しお話を伺いたかったと思えました。

- ・住民自治が興ることを考えておりました。そのインフラ整備は誰の仕事の領域なのか。ここに公権力がどのように関わるか考えています。ですが、議会がどのような立ち位置で関わるかの視点を頂きました。さすが、議会のトップランナーである芽室町議会だから出てきた問題提起だったと感じています。
- ・モニターにうつる文字が小さく、よく読めないところがたくさんありました。ペーパーレスはわかりますが、プロジェクターなどで説明するのであれば、パワーポイントや拡大したりしていただくとわかりやすいのではと思いました。本日は大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・この企画のテーマが公表された時点では、あまりにふわっとして大味なテーマ設定に感じられ、もっと思い切って主題を絞り込むべき（例えば「町内会を考える」とか「自治のあり方を見直そう」とか）だと感じましたが、講師の講演で論点が適切かつわかりやすく絞り込まれていったので、聴衆として「迷子」や「置いてけぼり」にならなくて済んだのかな、と思います。またそれゆえに、後半の意見交換がスムーズに、しかし充実したものになったのだろうか、と個人的に感じています。なお、「これからの地域自治をどう再考／再構築してゆくべきか」の問題を、今回のように「町内会というシステムの存在や持続」を前提として論じ合うだけでなく、「町内会のシステムに一切依らない（＝町内会ありきの固定観念から脱却した）地域自治／社会生活のあり方」という切り口でも、市民（議会）と行政とで侃侃諤諤、建設的に論じ合っていきたいものです。芽室地域の現状では、たとえば昨年連合会や町が主導して開催した「町内会活性化セミナー」にしろ、それ以前の「町内会関係者座談会（連続開催）」にしろ、所詮は、【町内会に関わりのある人たちによる、町内会ありきで、町内会の現状保持を目的とした情報交換】でしかありません。わたしは、なんとトンチンカンな時機ハズレのことをやっているのだろうと、とても残念な気持ちでそれらの取り組みをみていました（全く無駄だったとは思わないし、一定の意味はあったとは思いますが）。はっきり言って、今現在、芽室のみならず全国津々浦々で町内会活動が衰退の一途を辿っている1番の根本原因は、「町内会システムそのものが、もはや時代に即した役割を自ら明確に見出せず・創出できず・社会に訴えることができずにいる」という事実・現実にはほかなりません。「町内会がいったいなぜこの世に存在しなければならないのか」という問いに、町内会システム自身が（もしくは、町内会支援や活用を試みる行政が）、訴求力を持った言葉やデータを伴って明瞭に提示できずにいる。だから誰も寄り付かなくなるのです。どんなに「見守りが」「防災が」とか、「お隣が誰かも分からずに暮らすなんて、ありえない！」などと言葉をたくさん並べてみても、そこに誰もが納得できるリアリティーを付与できなければ、ただの空言に終わってしまいます。町内会に加入しない人たち・したがりない人たちが有言無言のうちに指摘し問うているのは、端的に言えば、「町内会って仕組みは本当に必要なのか？ もう要らんのじゃ無いか？」ということです。それなのに、町や連合会がやっているのは、どこまでいっても「町内会ありき」の発想、しかも、

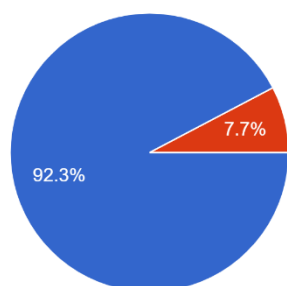
(広報すまいる「元気かい?」の最近の論考に明らかなように)「これまで町内会システムを維持してきた先輩方や、いま役員を担っている町内会関係者が望ましいとするやり方を、なんとかいまの若い人たちに“見習わせ”たい。若者だって“捨てたものじゃ無い”のだから。かたちはどうあれとりあえず若者たちをうまく巻き込んで、いまある町内会システムをなんとか延命させたい」という発想に基づいた取り組みでとしか、私には見えません。問題意識や課題設定の根本がずれていると思います。しかもそれを、「関係者ばかり」で寄り集まって「内向き」にやり続けている。「加入率が全道ワースト 5 位だ。困った。どうして町内会に入らない人がこんなに多いのだろう……」と嘆くのなら、その解消のために真っ先にやるべきことはもやは自明です。それは、町や町内会関係当事者が、町内会に意味を見出せない／参加したく無いと思っている人々(=非加入者や批判者)のところへ自ら出向いて行って、たとえば、「私たちにはもう今の時代のニーズを読み切る力がないのです。お願いします。みなさんがどうして町内会に価値を見出せないのか、どうして町内会に参加したくないのか、自直な気持ちや考えをぜひ詳らかに聴かせてください」と請願することです。〈思いや考えを異にする人たちの声に、自ら、謙虚に、傾聴すること〉、それが不可欠だと思います。議会にはぜひ引き続きこのテーマや問題意識を継続して掘り下げ、「町内会ありき」の前提の是非をも、ゼロベースで議論してほしいです。よろしくお願いいたします。

令和6年度 議会フォーラム アンケート結果（議員） （回答13名）

令和7年3月1日集計

1. 当日までの準備について（日時、場所、方法、内容、周知、準備の進め方、など）

13件の回答



● ①概ねよかった
● ②改善が必要

①概ねよかった 12

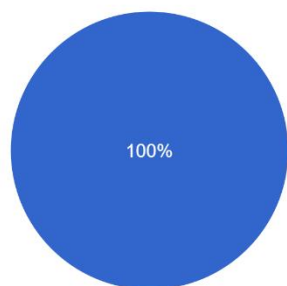
②改善が必要 1

1で②と回答された方は具体的に記載願います。

- ・ 仕事柄土曜日昼間の開催は非常に辛いです。意見です
- ・ 忌憚のない町民の意見が聞けた。

2. 当日の運営について（方法、内容、役割分担、など）

13件の回答



● ①概ねよかった
● ②改善が必要

①概ねよかった 13

3. フォーラムをとおして、議会として今後の活動に参考になった点、参加者からのご意見など、特にありましたら記載願います。（10件の回答）

- ・ 参加者からも議員を身近に感じたとの意見を貰いました。今後も是非開催したいと思っています。
- ・ 2部構成が長時間になり負担を感じる町民の方がいた
- ・ 【違う所属の方々たちと話し合う場が必要】という声がありました。そうした場をつくることも議会の役割だということは過去に開催したフォーラムや議員研修会で学んできた経緯もありますので今後の議会活動の大切な指針として共有していけたらと考えます。

- ・町内会活動で如何にすべきか悩んでいる町民が多く、反面町の活性化を求める声が多く参考になった。
- ・意見交換では、基調講演のお話から色々発言があり、貴重な時間でした。「人と人がつながる新たなまちづくりを考えよう」というテーマでやはり今の町内会の現状交流など、大変参考になりました。他町村の方も参加されての、グループワークは大変参考になりました。
- ・山崎講師のお話で、今後の町と議会の町内会への取り組みの違いの必要性を認識した。自由に意見を発言出来る雰囲気は良かったと思います。sound カードの活用も良かったと感じます。
- ・SOUND カードの有効性を確認できました。
- ・町内会活動は会員の求めている事と町の求めている事に違いがあるが町民の中にもギャップがある。
- ・参加者の意見を踏まえると、町内会の今後のあり方を考える上では、世代、性別などターゲットをより細かく分けてニーズの整理をする必要性を感じた。

4. 全体を通して何かありましたらご自由に記載願います。(9件の回答)

- ・テーマを決めることの難しさを感じた。全議員の意向を聞いて決めても良かった。意見交換会のみであれば、サウンドカードをもっと活かせたと感じる。
- ・講演の冒頭、山崎先生が資料に関して参加者に話していましたが、基調講演資料は議会HPで公開しておくとういと思います。可能なら事前に公開できるとより親切ですね(講師のご都合もあります)。はじめて議員だけでSOUNDカードを用いたWSを実践できたことはよかったですと思います。なかなか思い通りにいかないこともあったかも知れませんが、回を重ねることで習熟度もあがりますから、日頃から議員間討議などでも気軽にカードを使う習慣を持ちたいと思いました。
- ・折角の町民の声を行政に如何に反映させるか、いつ迄にどの様にして夢のある芽室にするかを煮詰める必要を感じた。
- ・他町村の議員等も参加されて、有意義なフォーラムでした。最初はサウンドカードに戸惑いを感じた方が多かったですが、楽しかったとの声をいただきました。また、グループワークを行うには、ちょうど良い班編成だったと思います。
- ・議会報告長すぎた。
- ・良かったと思います。継続をしながら改善点があれば修正していくような流れで良いと思います。
- ・議会フォーラムのあり方そのものを確認し次年度に繋げる重要性
- ・町内会組織率が上がらないと、今後の町の方向性を探るのは難しくなっていきそう。ワークショップの時間が1時間と限られた時間での実施となったが、2時間あるとより参加者からの意見を深掘りできると感じた。